

(資料2)

富田家住宅木南舎、土蔵（とみたけじゅうたくもくなんしゃ、どぞう）の概要

員数：2棟

所在地：岡崎市本宿町

所有者：個人

名称	形式	大きさ	建設年代	改修歴	登録基準
富田家住宅木南舎	木造2階建 瓦葺	建築面積 204 m ²	文政10年 (1827)	明治前期、 平成30年 (2018)	国土の歴史的景観に 寄与しているもの
富田家住宅土蔵	木造平屋建 瓦葺	建築面積 43 m ²	明治9年 (1876)	平成30年 (2018)	国土の歴史的景観に 寄与しているもの

【概要】

富田家は、元禄11年(1698)に旗本の柴田出雲守勝門の知行¹替えにより、正徳4年(1714)に富田善太夫庸久が陣屋²預かりとなった。その後、享保7年(1722)に元右衛門重庸が庸久の後を継ぎ、本宿の陣屋隣に屋敷を移し、富田家は幕末まで代々陣屋代官³を勤めた。

明治に入り、医者を開業した富田家は、陣屋と代官屋敷の土地を受け継ぎ、建物としては代官屋敷の旧主屋である「木南舎」とその奥に建つ「土蔵」を残している。現在は、敷地の中央に木南舎が建ち、その北西側に土蔵が並ぶ。

木南舎は棟札によると、文政10年(1827)に5代目群蔵常業により建立された。明治期に入ると柴田氏が江戸から国元へ移り、明治3年(1870)に富田家が「帰農願」を出しており、この頃に2階を一部修理したとみられる。

木造2階建、切妻造、瓦葺の建物で、屋根に越屋根(煙出し)を上げる。平面は愛知県の農家に見られる6間取りに近いが、土間部分を妻側に寄せる点や、居室部分の奥にL字に座敷を構える点、全体に部材が太い点など、武家住宅としての特徴も見せている。

「木南舎」とは、江戸時代後期に煎茶を極めた売茶翁方巖⁴(1760-1828)が訪れた際、広い庭園と背後の「楠」の大樹に感銘を受け命名したとされ、方巖書の扁額を残している。

土蔵は、木造平屋建、切妻造、瓦葺の家財蔵の北に、木造平屋建、切妻造、瓦葺の米蔵が接続している。1階部分を黒塗の下見板張とし、家財蔵2階部分を白漆喰塗として

いる。土蔵は明治9年（1876）の墨書があり、明治期の建立であることが分かる。

なお、平成30年（2018）に木南舎及び土蔵の改修工事が行われ、現在は木南舎はレストラン、土蔵は菓子工房及び古文書等展示室として活用されている。

以上のように、富田家住宅は、代官屋敷の景観を今に伝える貴重な文化財である。

知行¹ 幕府や藩が家臣に俸禄として土地を支給したこと。またその土地のこと。

陣屋² 江戸時代、代官や旗本などが任地や知行地に所有した役所のこと。

代官³ 幕府・諸藩の直轄地の行政や治安を司った地方官のこと。

売茶翁方巖⁴ 江戸時代の後期に活躍し、煎茶を広めた人物。



富田家住宅木南舎外観
(岡崎市教育委員会 提供)



富田家住宅木南舎内観
(岡崎市教育委員会 提供)



富田家住宅土蔵外観
(岡崎市教育委員会 提供)



富田家住宅土蔵小屋組内観
(岡崎市教育委員会 提供)